

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200313		
法人名	有限会社 ハート		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	佐賀県唐津市鎮西町高野534-2		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和5年12月12日	外部評価確定日	令和6年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>いつも笑顔で接するように心掛けています。ご利用者様が毎日楽しく生活していく上で、ご利用者の要望に少しでも近づける様に介護にあたり又、ご家族様にも安心を提供できるように取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム安寿は自然に囲まれた静かな環境の中、有料老人ホームと併設して平成24年開所している。開所時に作られた理念は今も変わる事無く引き継がれている。入居者も加齢とともに身体機能や認知症重度の方も増え、施設内で過ごす事が多く、管理者は職員と共に入居者にとって楽しく安心した生活を送る事が出来るよう支援している。食事やおやつも入居者様が喜んで食べていただけるものを調理し提供し、調理の過程も入居者にとって食事が楽しみになる施設である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週に1回理念の唱和をおこなっています。全職員に理念の意味を理解することから取り組むようにしています。入居者様の相手の立場になって考える事が出来るように努力しています。	開設時に作成された理念は今も思いは変わらず引き継がれ、リビングや会議室・玄関などに掲示されている。週1回の理念の唱和や職員のネームプレートの裏にも記載し、意識づけを図っている。職員は理念を理解し、笑顔でゆとりをもって楽しく過ごせる支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回実施している運営推進会議に参加して頂き、安寿の取り組みの報告を行っています。又、地区の行事等はコロナ禍でなかなか参加が出来ていません。	地域自治会に加入しており、区費も納入している。集会にも管理者が積極的に参加している。地区の清掃作業日は職員が参加し、施設周辺の除草作業を地域より任されている。周辺に民家が少なく日頃の近隣住民の立ち寄りには少ないが、隣接する有料老人ホームで行われる行事には地域からの慰問などもあり、参加することで入居者は楽しく過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地区行事には、なかなか参加が難しい状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行っており、意見を頂いたり情報交換をおこなっています。	運営推進会議の開催はコロナ禍で書面で各委員へ送付していたが、10月より開催している。議事録には事業所の活動状況なども報告されている。	各委員より出していただいた意見や情報などを議事録に記載し、運営推進会議の充実を図ることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があつたり、課題などがあれば担当の方に連絡をとり相談させていただいています。	管理者は市役所職員と面識があり、分からない事があれば、気軽に尋ねられる間柄である。生活保護入居者について相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行っています。	身体拘束に関する指針があり、入居時に説明されている。毎月の職員会議で勉強会も行われ、すべての職員は身体拘束の内容と弊害を理解している。日中の玄関の施錠はなく、見守り、寄り添いながら利用者の安全を確保し、自由な生活ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・施設内研修にて全職員に伝達しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見制度を利用されている方がおられ職員会議にて後見人についての勉強会を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にしっかりと時間をとり説明を行い出来る限り分かりやすく説明を行うように努力していきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時などで意見などがあった時には職員会議などで話し合いを行い反映出来るように心がけています。	コロナ禍で面会制限はあるものの今は面会時間を15分間と決め面会していただいている。家族には入居者の様子など小さな気づき等も報告している。遠方で面会できない方には家族と電話やSNSを利用して状況報告を行っている。家族との面会時は話易い雰囲気をつくり、意見を言ってもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議等で職員の声に耳を傾けるようにし意見が出た時などは全員で取り組みを行い評価を行うようにしています。	管理者は明るく日頃から職員との会話も多く、何でも言える関係性が出来ている。管理者は、会議で出された意見は検討し、運営に反映させるように努めている。職員の提案で入浴用リフトの購入予定である。管理者は職員が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	色々な相談ができるように日頃から職員とのコミュニケーションを図るようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修にて職員が講師を務め職員全員がスキルアップするように働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修などに参加した時などに意見交換、情報交換を実施しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に慣れて頂ける様に本人の状況に応じて対応するように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時や、担当者会議に来られた時に家族様からの要望などがあった際はケアマネジャーと相談をしながら要望に応えられるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の状態を職員同士、情報交換を行い必要なサービスがあれば家族様に連絡をしてサービスを行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言動などに耳を傾け共感し、一緒に楽しんだり出来るような環境づくりに心がけています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より入居者様に関わることをお互いに相談し、入居者様と職員だけの事に納めず、入居者様への思いやき気持ちを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月1回手紙を送らせてもらっています。又、固定電話も使用できるように配慮しています。	コロナ禍で、外出に制限がある中、家族の協力を得て、病院受診される際に外食や買い物などに行かれる入居者もいる。要望があれば友人や家族などに電話で会話できるよう支援し、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握して職員が間を取りもって良い関係を続けていけるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	引き続き相談や支援に努めるようにしており、他に入居希望など相談を頂いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望を聞くようにしています。困難な場合は職員で検討しています。	職員は入浴の時間など何気ない会話の中で表情やつぶやき、動作で思いを確認し共有している。本人からの訴え等が確認できない場合は担当職員が本人の思いを考慮し居心地の良い生活を送る事が出来る様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と会話していき、家族ともコミュニケーションを図り、これまでのその人らしい生活を追及、把握していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する本人の状態を常に情報交換を実施し見逃さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の意向や、全スタッフで情報交換を行い、ケアマネジャーが介護計画を作成しています。	家族よりケアプランに対する意向を確認しプランを作成している。記録は電子カルテで管理されている。職員の情報に合わせ、モニタリングが行われ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分かりやすい記録の書き方をするように心がけています。記録をみながら情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今一番本人にとって必要なサービスを検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に配慮して、毎日楽しく生活が送れるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、家族に状態報告を行っています。	入居契約時緊急時の対応等の関係から主治医変更の説明を行っている。週2回主治医の定期往診があり健康状態の把握が行われ、往診時の状況はその都度家族へ報告されている。急に受診が必要な場合や他科受診が必要な場合も職員が付き添いを行っている。家族が以前からのかかりつけ医を希望される場合も継続利用出来る様対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常を感じた時は、早めに協力病院に連絡し指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は病院に訪問して、その都度家族様に状態報告するようにしています。退院された後のケアも病院と相談するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態をみながら家族に説明するようにしています。又、家族の要望に応えられるように主治医と相談をしています。	重度化した場合の対応に係る指針があり、契約時に利用者や家族に説明が行われ同意を得ている。これまで複数の看取りの経験がある。利用者の状態に応じて、家族や主治医と何度でも話し合いを持ち、要望があれば家族の宿泊もでき、入居者や家族が納得した最期が迎えられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、近くの管理者・看護師に直ぐに連絡するように徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフには会議などで説明をしています。地域の方には、地域行事の時などで話をさせてもらっています。	年2回の消防避難訓練は、消防署の指導の下、また地域消防団の協力を得て、隣接する有料老人ホームと合同で実施されている。夜間を想定した訓練が行われ、利用者も一緒に体験している。原子力発電所の事故を想定した訓練も行われ、記録もされている。入居者の入り口のネームプレートは首にかけられるよう作成されており、裏には施設名と電話番号が記載され、避難時の誘導の確認ができるよう工夫されている。職員は消火器や火災報知機の使用も熟知しており、非常食の備蓄も整っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声かけなどは、他の方に聞こえないように耳元で話すようにしています。	個人情報を使用する目的を明確にし契約時に利用者や家族に説明し同意を得ている。毎月発行されるホーム便りに記載される写真などについても家族に説明し承諾を得ている。また排泄介助や入浴介助では、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや、口調に注意し支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいかを聞くように心がけ、いくつかの選択を出して選んだりしてもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室、リビングなど自分のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ばれる利用者もおられます。又、季節感に配慮出来るように声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ねています。色どりや、盛り付け、季節の野菜などを取り入れています。	毎日の食事は入居者の希望や担当職員が野菜や冷蔵庫の中にある食材で調理している。重複しないよう毎回メニュー内容を記録している。職員は入居者の食事の形態に合わせ、安全に摂取して頂けるよう食事時間の調整を行い介助を行っている。行事食やおやつ、誕生会のケーキ等も手作りしており、入居者はリビングから調理時の様子や匂いを感じる事が出来、食べる事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを毎日行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない部分のみお手伝いしています。状態によって訪問歯科をお願いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンをみながらトイレ案内を行っています。状態によっては、オムツ・尿取りパットを使用しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄支援を行っている。バルンカテーテルを留置している入居者もいる。常時紙おむつ使用が必要な入居者には定期的におむつ交換を行い皮膚の状態観察も行っている。時間毎の排泄誘導でリハビリパンツより布製のパンツに移行できた入居者もいる。排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取って頂くように声掛けをおこなっています。状態によっては医者に相談したり処方分の下剤を服用して頂いたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の方に午前と午後の入浴どちらがいいか声掛けを行い選んでもらっています。	入浴は週3回を基本とし、利用者は午前か午後の選択をしている。安全な入浴を心掛け身体機能が低下した利用者は、複数の職員で対応している。入浴を嫌がられる利用者には、無理強いはせず日にちを変えたり、清拭を行い支援している。入浴が楽しめるよう洗髪は本人好みのシャンプーを使用している。季節に応じてゆず風呂なども提供している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調に合わせて休息をとったりして頂いています。今は、皆さん夜間よく休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受けています。何か変化があればすぐに医師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近くの施設行事等に出かけたり、洗濯物たたみなど自分の役割として積極的に行っている利用者もいらっしゃいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩に出掛けたり、ドライブに出掛けたりしています。	コロナ禍の為外出の機会は少ない。気候の良い時期に施設駐車場に出て外気浴をする等気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望で管理が可能であれば所持出来るようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在、携帯電話をお持ちの方はいませんが、電話が必要時には施設の電話が使用可能になっています。又、家族様には事前に了承を得ていつでもやり取り出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、ソファを置いてゆっくり過ごせるように確保しています。又、玄関やリビングには季節感がある飾りをしています。	季節感を感じる事が出来るようホールにはクリスマスツリーが飾られ、入居者が作成した作品も飾られている。ソファや円形テーブルが設置されており入居者は思い思いに過ごされている。トイレや浴室も掃除がされ嫌な臭いもない。職員は感染症対策として毎日リビングの手すり、テーブル等の消毒や定期的な換気を実施し、加湿器の水も交換している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分だけの時間を過ごして頂ける様に、廊下のあちこちに椅子を置いて自由に座ったり出来るようにセッティングしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今現在、持ち込みの方はいませんが、契約時に持ち込みも出来ます、とお話しはしています。	入居時に馴染みの品の持ち込みを勧めており、その人らしい居室づくりがされている。施設よりベッド・整理タンス・寝具が準備され、シーツ交換も毎週行われている。汚れがあればその都度交換される。コロナ禍で家族の来室が少ない中、季節に応じた衣類の整理やエアコンフィルターも含め室内の掃除は職員が行っており、入居者が快適に過ごす事が出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、各部屋には表札を付けています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない